

受領No. 1584

土壌特性の直接観測に基づくプランテーションの社会水文影響の分析と洪水管理の検討

代表研究者 矢澤 大志（東京大学生産技術研究所 助教）

共同研究者 Dr. Zul Ilham Bin Zulkiflee Lubes（マレーシア・マラヤ大学 准教授）

Analysis of socio-hydrological impacts of plantation based on direct observation of soil characteristics for local flood management

Representative Taishi Yazawa (Research Associate, Institute of Industrial Science, The University of Tokyo)

Collaborator Dr. Zul Ilham Bin Zulkiflee Lubes (Associate Professor, Institute of Biological Sciences, Faculty of Science, Universiti Malaya, Malaysia)



研究概要

本研究はアブラヤシ農園建設プロセスの地域水文環境への影響と、現地住民の経験則・暗黙知として伝えられてきた農園の管理方法が本当に有効であるかを、自然林、そしてアブラヤシ農園の各生育エリアで土壌特性の直接観測を行うことで明らかにする。そして調査過程で農園オーナーや現地住民と経験的な管理の有効性や改善点の議論を深め、洪水による経済的損失を減らすための管理として、地域でどのような対策活動が有効であるかをハード（農園設計）とソフト（住民行動）の両面から分析する。洪水管理の検討では実行可能であるか（フィージビリティ）だけではなく、現地の人々にとって負担可能であるかというアフォードビリティの概念を取り入れ、住民との対話によってそれを実現する。プランテーションに起因する環境問題と被害影響は、日本をはじめパーム油を輸入しているあらゆる利害関係者が間接的に環境汚染に加担しているという社会的課題である。そのため地域で頻繁に起こりアブラヤシの生産量にも影響する農園内の洪水・浸水に対して、経験的管理からの脱却を図りながら、現地の人々にとって“負担できる”管理方法を検討することは、現存のアブラヤシ農園の有効利用と生産性向上につながり国際貿易の観点からも意義のあることである。